

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
新エネルギー委員長 中島 稔
両団体専務理事 清原 淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第345回)

日時 令和2年10月7日(水) 午後2時～4時半

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時半より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。また、会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて思う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、『新エネルギー関連ニュースNO.198』

解説 中島稔新エネルギー委員長

3、化石燃料代替バイオディーゼル生成技術

解説 富永基樹早稲田大学教育・総合化学学術院准教授

報告 去る7月8日開催の第344回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

はじめに、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて思う」と題して開会挨拶がありました。新型コロナウイルスの感染再拡大傾向、九州はじめ西日本の水害など、最近は暗いニュースばかりだ。そんな中、唯一の明るい話題といえば、理化学研究所などの開発したスーパーコンピューター「富岳」の性能がAI処理能力評価やビッグデータ分析など4部門の性能で世界一となったことであろう。この「富岳」を、新型コロナ対策のほか、薬品製造、防災、地球環境予測、エネルギーの創出・変換・貯蔵、高性能材料の創成、宇宙の起源

解明に至るまで、高い計算能力を生かし、ビッグデータ解析を通じて、我が国の発展に生かしていくことが期待される。

次に、清原淳平専務理事より、逢坂哲彌早稲田大学名誉教授の経歴紹介がありました。次に、逢坂名誉教授より、「これからの蓄電池トレンドとその役割について」と題して解説をいただきました。蓄電池とは、化学反応によって発電で得た電気エネルギーを溜めることのできるデバイスである。主に電気自動車と定置型に用いられる。日本は二次電池や燃料電池で技術的に優位に立ち、特許出願数も多いが、せつかく企業が技術を持っていても、いつの間にか中国メーカーが大量生産している事例が多い。これでは液晶パネルや携帯用リチウムイオン電池のように、かつて日本が圧倒的シェアを誇っていたながら、10数年後には凋落している失敗の轍を踏んでしまう。産官学協同で守っていかねばならない。リチウムイオン電池の性能向上のために力を入れているのが材料開発である。特に、ニッケル・コバルトといった産地が偏在する物質はコストダウンの障壁になるので、これに代わる物質の模索は電気自動車普及への道を開くものである。硫黄は軽いので、大容量のバッテリーにも搭載できる一方、絶縁体なので、積載量を増やすと電流が流れにくくなる。透過膜によるコーティングで劣化を防ぎ、長寿命化を目指している。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.196』の解説がありました。今回は、○水素を用いた製鉄や燃料電池車生産など、脱炭素化に向けた財界の動き。○火力発電所のCO₂省エネ回収技術。○浮体式洋上風力発電の実証試験開始。陸上と洋上合わせ10年後に1千万KWの風力発電をめざす。○地熱発電開発が頭打ち傾向。開発に時間がかかり、企業が投資しにくいのが主因とされているが技術継承に懸念。○先端技術の海外流出防止策。特に半導体やバイオ、5Gに関する技術など、アメリカを参考に指針を設ける。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。

次回、10月7日(水)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は二千元となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp

当日連絡先 080(8836)6203(重田) 080(9292)2620(高津)